

国語を表記する上で十分な機能を果たせるつづり方の検討に当たって(案)

○ 長音の書き表し方

① 文字の上に符号を付ける (原則とするか。)

現行のとおり。内閣告示では山型 (「[^]」) を用いることとしているが、社会生活における実態としては、ほとんどの場合マクロン (「^ˉ」) を使用。

符号付き文字を使用できない (使用しない) 場合の考え方

② 現行の内閣告示と同じ考え方で母音を並べる

例) Ōita → Ooita Bōsō → Boosoo

「大文字の場合は、母音字を並べてもよい」とされてきたものを大文字でない場合にも適用する。

③ 母音を並べる。その際、現代仮名遣いに通ずるつづり方を用いる

例) Ōita → Ooita Bōsō → Bousou

特にオ列長音においては「OO (おお) 型」と「OU (おう) 型」を書き分けることとなるが、仮名遣いを理解していれば迷うことがなく、情報機器への入力方法とも一致する。一方、仮名遣いが分からない場合はどうかといったことが課題となる。

なお、イ列のうち「新潟 (にいがた)」等、エ列のうち「永平寺 (えいへいじ)」等の長音表記については、実際には長音として発話されることが多い場合にも、長音符号は用いず、現代仮名遣いに通ずる方法で書くのが一般的である。例えば全国の地名、駅名等の表記では、「Niigata」「Eiheiji」といったつづり方が用いられている。

④ 「h」を用いる

例) Ōita → Ohita Bōsō → Bohsoh

スポーツ選手の氏名の示し方などに見られる書き方であり、長音を示すための慣用として一定の広がりがある。一方、例えば「城壁 (じょうへき)」では「Johheki」となるなど、促音表記と区別できない場合がある。

⑤ 文字の後にマクロン、山型、ハイフン (「-」) 等の符号を用いる

例) Ōita → O^ˉita/O[^]ita/O-ita Bōsō → Bo^ˉso^ˉ/Bo[^]so[^]/Bo-so- 等

情報機器などで、符号付き文字が使用しにくい場合に便宜的に用いることが考えられる。一方、これまでのローマ字つづりにおいては一般的でないことが課題となる。なお、ハイフンには別の用途が想定される。